

22. 知能検査の結果に基づく支援 (Binet 系・Wechsler 系) / 講師 吉田ゆり先生

【ウェクスラー系】

名称	対象年齢
WPPSI-III	2 歳 6 カ月 ~ 7 歳 3 カ月
WISC-IV	5 歳 0 カ月 ~ 16 歳 11 カ月
WAIS-IV	16 歳 ~ 89 歳

【アセスメントの目的】

- ・ 早期支援 (スクリーニング)
- ・ 診断のため
- ・ 学校での支援計画立案に向けた実態把握のため
- ・ 手帳発行や就学に関する資料の作成

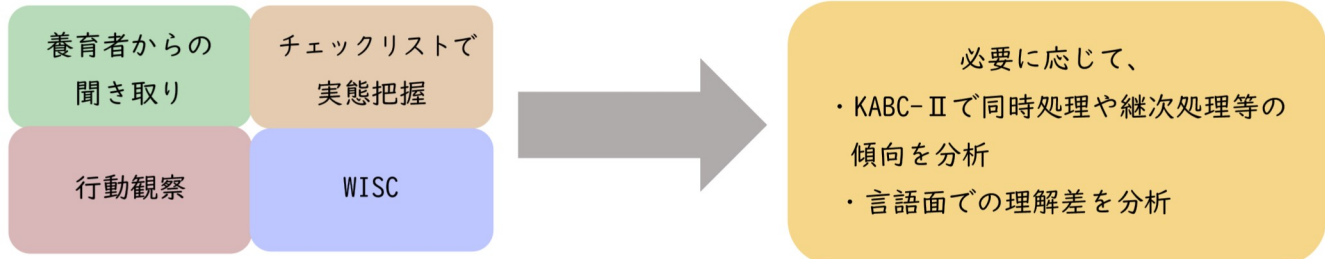
WISC をすると、
発達障害が分かるという
ことはない

【何のために WISC をするのか】

◎ 経験した人にしか分からない疲労感がある ⇒ むやみやたらに検査をするべきではない。

- ・ 養育者のニーズや疑問に対して、検査で意味づけしていく。
- ・ 得意不得意ではなく、“もう少し工夫したらできること”、“得意なこと”を探す。
- ・ 支援のプランニングに役立つ。

【事例】



【まとめ】

- 支援計画作成に有効な情報を得て整理する。
 - ⇒ “褒めて伸ばす” … 本人の得意なことを検査から分析し、ピンポイントで褒めていく。
- WISC を使うことによって整理されたこと。
 - ⇒ ・ 発達障害 = 視覚優位ではない。様々な視覚処理があるため、個人で得意な処理方法も様々。
 - ・ “教科によって苦手・得意が明確に分かれている” とも限られない。単元によって苦手得意があったり、学び方の得意不得意によって差が出る。
 - ・ タブレット教材 … 学習の動機づけには有効だが認知処理によって苦手なものもあるため、その子に合った教材を選ぶ必要がある。
 - ・ できることは主観ではなく、客観的にアセスメントして整理し、見つけていくことが原則。